

## 百年の計、富士山に緑を返す運動

御殿場ライオンズクラブ  
御殿場市萩原515 商工会館内  
TEL/0550-84-0804 FAX/0550-83-9923



御殿場ライオンズクラブでは現在、「百年の計、富士山に緑を返す運動」を展開しています。これは富士山御殿場口周辺の砂礫地帯にある植物の枝を取り、里に挿し木して、2年後に富士山に植え返すという活動で、実施期間は百年。1991年7月にスタートし、今年11年目を迎えます。まだまだ長い、将来につなげる活動です。

これまで、ライオンズデーとして単発的な奉仕活動を続けてきましたが、継続でき、地域のためになるものをと模索していた時、メンバーより「富士山の水を頂いている我々の務めとして、富士山の砂礫地帯を緑にしよう」との声があがり、

早速検討に入りました。地元の植物学者の指導を受け、初年度秋に挿し木用の枝、バッコウヤナギ300本、フジアザミの種を採取。翌年6月にバッコウヤナギ200本、フジアザミの苗200本を砂地に返しました。が、砂礫地帯であるため問題点も多く、現在はバッコウヤナギのみとし、活動しています。

また地元新聞を通し活動のPRをしたことから地元の中学校から協力依頼もあり、その後は県の富士山保全室からの力要請もあるなど、今では6月の第1例会日を富士山植樹会として、ライオンズ、自治体、中学校、地元財産区、静岡県ボランティアグループ、ライオンレディが協力しあい実施しています。

富士山を愛する人や、地元で生活している多くの人が、富士山を育てる運動に関心を持つと同時に植樹参加を希望してくれています。地元中学校では敷地内に挿し木圃場を持ち、生徒たちが管理し、育てた苗木を富士山に植えています。こうした子どもたちの夢を継続し、育てていくことが、自然環境の重要性を知り、郷土愛に結びついていくのだと思います。大きな雪崩被害にあうこともあるでしょうが、負けずに百年、続けていく予定です。

## 富士山と共に40年。今年も「3776大作戦」に参加します。

静岡県ワンダーフォーゲル会  
静岡市弥勒2-5-11 (事務局・今村)  
TEL・FAX/054-255-2758



静岡県ワンダーフォーゲル会の発足は昭和35年、昨年、創立40周年を迎えました。現在は県内各地に15カ所の支部を持ち、会員数も800名を数えるに至っています。

当会と富士山との関わりは深く、発足記念のワンダリングも富士山の下、天子岳でした。当日の富士山は前夜の新雪に覆われ、ひととき美しく化粧し、我々を迎えてくれました。以来「静岡県ワンダーフォーゲル会」は単なる登山対象の山「富士」を離れ、富士山の一斉清掃に関わり続け、平成8の「1000名の富士山登山清掃隊」では多数のリーダーを参加させ、参加者全員の富士山登頂と清掃任務を遂行。

その指導力を地元関係者から感謝、賞賛されました。また、静岡新聞社が行った「富士山を世界遺産に」の署名活動にも関わり、「富士山憲章」のPR、「ふじさんネットワーク」への加盟など静岡県富士山環境保全運動にも積極参加し、昨年の「富士山自然林復元大作戦」の植樹活動には300名の参加者を送り出しています。「静岡県ワンダーフォーゲル会」と富士山とのおつきあいはこれからも永遠に続くことでしょう。

「日の光を浴びて、自然と親しむ」を綱領に40年。この間海外登山を含め、3600回にも及ぶ山行を行ってきました。また「来たときよりも美しく」をモットーに活動を進め、県内各地で清掃登山を実施。静岡県知事から「美化協力者」として表彰を頂きました。

40周年を経、50周年へと歩みだした当会は地域スポーツの振興をワンダリングに与えられた責務と認識し、組織充実のため、現在NPO法人の認証獲得を目指しています。

## 富士山をよみがえらせ、世界遺産に登録を

静岡地理教育研究会  
静岡市瀬名1-11-85 TEL/054-262-2009 FAX/054-208-5061  
Eメールアドレス zbb30169@olive.zero.ad.jp

私たち静岡地理教育研究会は、社会科教員の自主的な集まりです。毎月1回泊まり込みの研究会をもち、これまで32年間にわたって活動して来ました。何をどう教えるべきか、現代の世界と地域をどうとらえるべきか、私たちは農山村や漁民、あるいは工場を訪ね、そこに生きる人々の暮らしと、息づかいに接しながら思索してきました。その活動の中から生まれたのが『富士川の変貌と住民』、『よみがえれ 大井川』の2冊の著書でした。

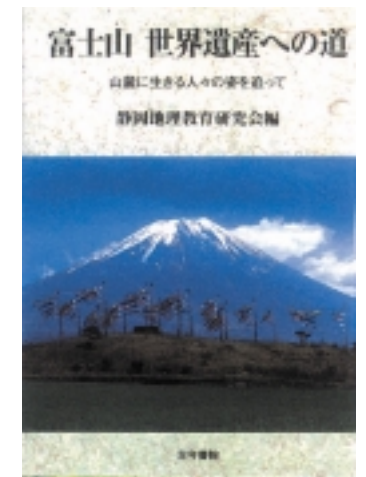
それから10年、私たちは富士山をテーマに取り組みました。富士山麓に生きる人々の中に入り、富士山のありのままの姿に接することで、富士山の今日的課題に迫りました。

朝霧高原の酪農家が風雪に耐えて開拓した辛酸や、忍野八海の北富士、忍草での「母の会」の入会闘争の話には心をうたれました。社会問題にもなった新興宗教と住民の攻防も取材し、沖縄米海兵隊の演習も目の当たりにしました。

近年、富士山を世界遺産に、という運動が大きくクローズアップされています。しかし私たちの研究からは、世界遺産にふさわしくない「富士山の今」が浮かび上がってき

ました。山肌に掘られた巨大な産業廃棄物処理場。観光道路とレジャー施設が山肌を裂き、オフロード車が道なき道を駆け巡り、観光客や登山者のゴミと尿の処理が大きな問題となっています。トイレの研究や森づくり運動等、自然の復元と共生するための課題は山積みです。

私たちはこの研究をまとめ「富士山の今」を山麓に生きる人々を通して、新しい視点で総合的にとらえました。そして昨年12月15日、『富士山世界遺産への道 山麓に生きる人々の姿を追って』と題し、古今書院より出版しました。ご一読いただければ幸いです。



## 南富士はマイフィールド

日本野鳥の会南富士支部  
富士宮市西町12-10  
TEL/FAX/0544-26-4089

本会の発足は昭和36年。第1回野鳥愛護のつどい企画、「囀」の創刊。昭和38年に静岡県野鳥愛護協会を発足。昭和39年に日本野鳥の会全国大会を富士宮で開催し、富士山2合目湧水地を中心に一大探鳥会を催したのが、富士山と共に歩んだ、本会活動の流れの原点です。以来、現場重視、愛鳥思想・自然保護思想の普及拡大を旨とし御殿場支部、静岡支部と連携し、活動を県下に拡げてきました。

何より、その頃は「愛鳥」や「自然保護」の未発達時代であったため普及部を置き、底辺拡大に努力しました。飼鳥の放鳥大会や愛鳥週間のポスター、作文募集、愛鳥モデル校の指定や協力、探鳥会の実施にも努めました。

当時は登山バスも2合目湧水地止りであったため、辺りは幽玄の世界で、大天然林を保存した聖地でした。

また当時から入山マナーは厳しく、探鳥会の都度、ゴミ拾い、山道補修、水場を造ってきました。夏場に1カ月も晴天が続くと富士山の生物は移動し、大型動物は棲めません。そこで諸方にコンクリート製水溜を設置し、多少の補いを願ったこともありました。

近年は行楽客が増加し、ボランティアも増えたことから、シーズンやイベント開催時は遠慮し、平素活動に廻るよ



うにしていますが、ゴミ一斉清掃、3776大作戦、植林地造成作業等には可能な限り参加してきました。また環境変化に対応する生物生息調査には常にデータ報告し、担当所等に助言をしています。

富士山との関わりは探鳥で、4月は天照神社、5月は高鉢遊歩道、7月は5合目宝永遊歩道等がメインで、毎年定番になっていますが、時には西臼塚、旧2合目湧水地、東臼塚になったり、冬鳥の特別調査もあり、事実調査ではありながらも楽しみでもあります。人として、自然との対話が究極の慰めでもと思っています。